

令和4年度
自己評価報告書

一般財団法人 岩手済生医会
岩手リハビリテーション学院

I 自己評価について

岩手リハビリテーション学院では『専修学校における学校評価ガイドライン』（文部科学省：平成25年3月）に基づき、学校評価実施規程を定め自己評価を行なっている。

II 自己評価委員会

委員長	齊藤 和好	学院長
委員	細川 康紀	副学院長
委員	及川 龍彦	理学療法学科長
委員	岡崎 謙治	作業療法学科長
委員	峯 智	事務長

III 対象期間

令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日

IV 各評価項目における取組状況

1. 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
2) 学校における職業教育の特色を持っているか	4
3) 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
4) 各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

【現状および課題】

- ・教育理念・目標・育成人材像などについてはホームページ・学生便覧への掲載を継続的に
行っている。また、オープンキャンパスや入学時オリエンテーションにおいても伝えている。
- ・より具体的に教育方針を周知するため、3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュ
ラムポリシー、アドミッションポリシー）を策定し、ホームページ等でも公開している。
- ・社会人に求められる素養の獲得に向け、外部講師による各種セミナーを実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により昨年同様、Web 開催でのイベント（臨床実習指
導者会議・実習地訪問・就職説明会等）を活用しながら業界ニーズの把握に努めた。

【対策】

- ・令和5年度は就職説明会を両学科合同で行い、業界ニーズの把握に努めていく。
- ・未だに新型コロナウイルス感染症の影響により対面での臨床指導者会議や実習地訪問に
は支障を来しているが対面とWebのハイブリット形式を活用しながら業界ニーズの把握に
努めていく。

2. 学校運営

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	4
4) 人事・給与に関する規程等は整備されているか	4
5) 教務・財務等の組織整備など、意思決定システムは整備されてい るか	4
6) 教育活動等に関する情報公開が適切に行われているか	4
7) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

【現状および課題】

- ・学校運営は学科会議・各業務会議等で協議の上、学院の意思決定機関である職員会議にて
意思決定を行っている。また、重要な案件に関しては、法人理事会に諮り承認を受けている。
- ・学籍管理システムに一部修正を加えることにより業務の効率化が図られている。
- ・ホームページ管理において内容の変更等で遅れを生じることがあった。

【対策】

- ・ホームページに学生掲示板を新設し、学校生活・学業における情報共有や伝達システムの充実を図る。
- ・ホームページ管理体制の整備を行う。

3. 教育活動

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2) 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3) 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5) 関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
6) 関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7) 授業評価の実施・評価体制はあるか	3
8) 成績評価、単位認定、進級・卒業判定の基準が明らかになっているか	4
9) 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的位置づけはあるか	4
10) 人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	4
11) 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
12) 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4
13) 教員の能力開発のための研修会等が行われているか	3

【現状および課題】

- ・学科毎に人材育成要件（指定規則、教育ガイドライン、養成教育モデル・コア・カリキュラム等）を踏まえたカリキュラムの検討を行っている。
- ・臨床教育に関しては令和4年度も両学科ともに臨床実習指導者会議を Web にて開催し、臨床実習指針等の共有を図り、臨床実習の進捗状況確認や情報交換は新型コロナウイルス感染状況を踏まえ電話・Web・現地訪問を織り交ぜながら行った。
- ・授業評価に関しては、学科毎に学生に対し授業アンケートを実施し、授業の質の向上に役立てている。
- ・成績評価、単位認定、進級・卒業判定は『学則並びに履修方法及び学修評価に関する規程』に基づいて施行し不具合は生じていないが、GPA（Grade Point Average）導入を検討している。
- ・常勤教員には実務経験を有する者を配置している。また、専任教員は両学科ともに規定教員数を確保しているが4年制での指導・教育体制の充実に向け、増員（各学科8名体制）を計画していたが実現には至らなかった。

【対策】

- ・授業アンケート内容の吟味や活用方法の見直しを進めていく。
- ・業界が求める人材を把握する目的で臨床指導者(教育者)会議にてアンケート調査を行う。
- ・カリキュラム変更や GPA（Grade Point Average）導入等について令和7年度導入に向け準備を進める。
- ・専任教員は理学療法学科6名、作業療法学科7名体制となったが、学生指導等の充実に向け人員の拡大が必要と考え、引き続き各学科8名体制を目指していく。

4. 学修成果

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 就職率の向上が図られているか	4
2) 資格取得率の向上が図られているか	3
3) 留年率の低減が図られているか	3
4) 退学率の低減が図られているか	3
5) 卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか	3
6) 卒業後のキャリア形成への教育活動がなされているか	4

※第 58 回国家試験について

理学療法学科	新卒受験者数	合格者数	合格率（全国）
	0 名	0 名	— % (94.9%)
	既卒受験者数	合格者数	合格率（全国）
	6 名	2 名	33.3% (49%)
	総受検者数	合格者数	合格率（全国）
	6 名	2 名	33.3% (87.4%)
作業療法学科	新卒受験者数	合格者数	合格率（全国）
	4 名	1 名	25% (91.3%)
	既卒受験者数	合格者数	合格率（全国）
	10 名	4 名	40% (44.3%)
	総受検者数	合格者数	合格率（全国）
	14 名	5 名	35.7% (83.8%)

《理学療法学科》

【現状および課題】

- ・令和 4 年度は卒業生を輩出していないため、第 58 回理学療法士国家試験受験は既卒生（6 名）のみであった。
- ・第 59 回理学療法士国家試験の受験に対応するカリキュラムを設置し、模擬試験や個別指導を含めた体制を整備してきた。

【対策】

- ・次年度においても今年度同様に模擬試験や個別指導を進めるとともに学生の国家試験に対する意識高揚を図り、学習効率を高めるための学修方法指導を継続する。

《作業療法学科》

【現状および課題】

- ・第 58 回作業療法士国家試験受験は新卒者 4 名、既卒者 10 名の受験となった。
- ・新卒者は進路の悩みや学習方法改善に時間がかかっていた。卒業期にはそれぞれが抱える課題解決に向け意欲的に取り組んでいたが、国家試験は不本意な結果となってしまった学生が多かった。
- ・既卒生は理にかなった学習計画を持ち取り組んでいた者は合格していたが、資格取得の意識が高まらない者は不合格となっている。

【対策】

・学習面

最終学年前に学年毎の履修内容に併せた国家試験への意識付けを行わせる。

一定割合でペースから外れる学生に対して個別面談でペース作りを早期に行えるように指導を行う。

模擬試験、業者模試などを通して取得率の向上を目指していく。

・学習環境について

クラスの集団凝集性を高めるためイベントを企画し、入学時から構築するよう努める。

・その他

既卒生に対しては業者開催の通信添削指導の紹介も必要に応じて行う。

※留年者・退学者状況

－留年者－

理学療法学科 116名中0名 0%

作業療法学科 94名中3名 3.2% (1年生1名、2年生2名)

－退学者－

理学療法学科 116名中6名 5.1% (1年生5名 2年生1名)

作業療法学科 94名中3名 3.2% (1年生3名)

《理学療法学科》

【現状および課題】

・学生に対する日常的な声かけや成績不振者に対する個別指導を行い、本人の努力は認められたものの今一步、結果に結びつかなかった学生が本年度は発生した。留年者はなかったものの退学者に関しては入学初年度学生が多く、自身の職業イメージと学修におけるイメージにギャップを感じる学生が多く見られた。

【対策】

・入学前教育等外部サービスのフィードバックをより効率的に活用する方向性を模索し、早期に潜在成績不振者のスクリーニング法を検討していく。

また、退学への対策としては説明会等入学希望者への説明や理解を進めるための内容を検討し、入学時の職業イメージを定着する方策を模索し、可能な限り当初より職業イメージを定着した状態で入学が可能となるよう努力していく。

《作業療法学科》

【現状】

・担任制を取り、学年毎にFD等の実施にて学生個々の課題の把握に努めている。この課題を教員間で共有し、個別指導を実施しているが今年度は留年生3名、退学者3名を出してしまった。原因としては、成績不振、入学動機が不明確、進路の変更、経済的理由などであった。

【対策】

- ・個別面談を実施して個々の課題の把握に努める。この内容は教員間で共有し出来るだけ早期に問題・課題の把握に努める。
- ・学修面に関しては学習の習慣化が行えるように週間予定の作成と実施をもとにしたPDCAによる自身の課題の気づきを導くよう努める。
- ・職業人としてのキャリアラダー、学生の実施内容の透明性を高めることによって個々が自身の意識の向上につながるよう努める。

5. 学生支援

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2) 学生相談に関する体制は整備されているか	3
3) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4) 学生の健康管理を担う体制は整備されているか	4
5) 課外活動に対する体制は整備されているか	4
6) 学生の生活環境への支援は行われているか	4
7) 保護者と適切に連携しているか	4
8) 卒業生への支援体制は整備されているか	4
9) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10) 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	3

※就職支援

《理学療法学科》

【現状および課題】

・本年度については卒業生の輩出がなく、就職実績はないが次年度は最高学年が卒業を迎える事から、本年度より実習施設や就職実績がある施設等に対して『本年度に関しては卒業生の輩出がないものの次年度については就職活動が開始される』旨の文書案内を定期的に発出した。併せて、次年度の最高学年に対しては各施設より資料提供を頂き、これを閲覧する就職供覧会を実施した。学生に関しては前年度同様、学年毎に企画の違う就職ガイダンスを実施し、低学年については働くということの理解とキャリアラダーの理解、高学年に関しては実際の就職活動イメージを作るとともに、雇用者の意識を理解する為のカリキュラムを実施した。

【対策】

・次年度に関しては最高学年の卒業に合わせて関係機関への就職活動開始を案内するとともに、就職説明会を実施し各施設と学生の接点を多く確保する予定である。併せて、従前通り各学年の特性に合わせて就職ガイダンスを実施するとともに最高学年に関しては定期的な就職指導や個別相談の受付を実施の予定としている。

《作業療法学科》

【現状と課題】

・各学年共通で就職に関する情報の提供、個別面談における相談受付・対応を担当が中心に行う。就職、職業としての意識付けのため卒業生との懇談、最終学年時には求人採用施設出席のもと就職説明会（2回）等を企画しており、これらの活動を通して自己の将来像、就職というものを意識する機会を設けている。

これまでは毎年、職業・就職に対する意識付けは行ってきた。学生にとって実習など臨床現場での体験は印象深くなる傾向が強くなる。就職支援に関しては、体系的、計画的という点では不透明であった。

【対策】

・卒業時に向けて学年毎の指導内容を整理し体系化を図る。学生に透明化を示すことによって自身の将来像に対する意識付けを行うように努める。

※学生相談

《理学療法学科》

【現状および課題、対策】

・感情表出が苦手、他者への働きかけが苦手な学生が多い。現時点では教員からの積極的働きかけを行うことで、一定数の学生が相談に訪れる実績は見られる。また、学科会議においては定期的に各学年に対する意見交換を行うことで学生の変化を早期に発見する努力をしている。一方で教員に対する働きかけが苦手な学生が水面下に一定数いることも想定され、これらの学生に関しては掘り起こしが必要な状況である。学生と教員の距離を縮める努力を継続し、平時における学生の様子を十分に観察しながら比較してゆくことと教員間の情報共有を密にすることで学生の相談しやすい環境を整備する。

《作業療法学科》

【現状および課題】

- ・クラス担任が定期的に個別面談を実施している。
- ・相談内容により適宜学生が教員を選択できるよう体制を整えている。

【対策】

・面談教員の確認だけでは不十分であり、令和4年度はアンケートを定期的実施した。これらの内容は教員間で共有し、その都度対応を検討する体制の整備を行った。

※ハラスメント

【現状および課題、対策】

・学院に相談員を配置し、相談の受け入れ態勢を整えているが、活用されることは今のところない。学生アンケートにおいても成績や体調面に関しての記載はあるがハラスメントに関する記載はみられていない。令和5年度からは業者によるアンケートを追加し生活全般や学修意欲等の調査を行い多面的な把握に努めていく。

※保護者等との連携

【現状および課題】

・入学時と最終学年を迎える学生（作業療法学科は全学年で開催）の保護者等に対する説明会を企画し、年間スケジュール、学修内容、個人情報保護、感染対策、学院との相談窓口の確認などを行った。（新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、Zoom利用のオンライン開催となった）

【対策】

- ・開催曜日・内容・方法などに関しては保護者等アンケートを踏まえて企画していく。
- ・理学療法学科は1・3・4学年に対して、作業療法学科は全学年で保護者説明会を予定している。

6. 教育環境

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2) 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制が整備されているか	4
3) 防災に対する体制は整備されているか	4

【現状および課題】

- ・指定規則改正に伴う必要備品の整備を進めている。(令和5年度で整備が完了予定)
- ・必要備品の整備は令和5年度で完了するが、設備・備品等の老朽化も見られており、新たに5か年計画を策定した。
- ・臨床実習施設は新型コロナウイルス感染症の影響により、急遽取りやめとなった施設もあったが、代替え施設を滞りなく選定し対応することができた。
- ・学院内防災体制の組織化を図り、災害への対応の指導・防災訓練をするとともに災害時対応自販機の設置等学内設備の整備を行っている。

【対策】

- ・令和5年度から校舎老朽化(外壁・窓・非常階段等)に対し、新たな5か年計画に基づき整備を開始するが、加えて教育備品等の入れ替えも検討していく。

7. 学生受け入れ

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 学生募集活動は適正に行われているか	4
2) 学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか	4
3) 学納金は妥当なものになっているか	4

【現状および課題】

- ・学校見学説明会、学院ホームページの開設、情報公開、各高校への資料配布、募集要項・リーフレットの作成及び配布を行っている。
- ・テレビCMを活用し学院説明会の広報を行った。
- ・新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、岩手県内の一部の高校のみ訪問を行った。
- ・学院見学を希望する中学校・高校・個人は全て受け入れた。
- ・最低限の必要経費を目安とした学納金を設定している。

【対策】

- ・新型コロナウイルス感染状況によるが県内を中心に高校訪問を進めていく。
- ・業者や高校で企画している進路相談会や進路説明会は可能な限り参加し、学院見学を希望する中学校・高校・個人に対してもできる限り受け入れていく。

8. 財務

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 中長期的に学校の財産基盤は安定しているといえるか	4
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか	4
3) 財務について会計監査が適正に行われているか	4
4) 財務情報公開の体制整備は出来ているか	4

【現状および課題、対策】

- ・指定規則改正や4年制移行に伴う一時的な支出増があるものの基盤としては安定しているが、入学志願者の確保に向けた対応の検討を継続的に行う必要がある。
- ・財務情報をホームページ上に公開している。

9. 法令遵守

評価項目	適切・・・４
	ほぼ適切・・・３
	やや不適切・・・２
	不適切・・・１
1) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2) 個人情報保護に関し、その保護のための対策が取られているか	4
3) 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
4) 自己評価結果を公開しているか	4

【現状および課題、対策】

- ・理学療法士・作業療法士養成施設等学校指定規則に則り運営している。
- ・個人情報保護については『個人情報の保護に関する規程』に基づき逐次説明と同意を実施し、知り得た情報については適宜保管している。
- ・昨年度より自己評価及び学校関係者評価を行い、自己点検を進め、その内容についてホームページ上に公開している。

10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・４
	ほぼ適切・・・３
	やや不適切・・・２
	不適切・・・１
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2) 学生ボランティア活動を奨励支援しているか	4
3) 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

【現状および課題】

- ・他団体活動に対する備品貸し出しなどを行った。
- ・各地域の新型コロナウイルス感染状況を確認しながら、一部（障がい者スポーツ大会など）ボランティア派遣を行った。
- ・業界団体を経由した講師依頼や各種委嘱に対する派遣は Web で対応可能なものを中心に行った。

・地域住民の健康増進に向けた支援体制について地域包括支援センターおよび地域住民代表との間で検討を行った。

【対策】

- ・新型コロナウイルス感染状況にもよるが各種ボランティア活動に協力していく。
- ・業界団体を経由した講師依頼や各種委嘱に対する派遣を引き続き行っていく。
- ・地域包括支援センターと連携し地域の小学生に対して認知症啓発活動や地域住民に対する健康増進事業のサポートを行っていく。
- ・近隣住民の健康増進に向けた取り組みを地域包括支援センターと協力しながら進めていく。